第８章　今後の計画の推進のために

これまでの活動の報告を紹介します

1.キッチンガーデン

食育は、食に関する非常に幅広い内容を含み、健康、教育、環境、農業など多方面に及んでいます。食育に対する取り組みは、関係者が、それぞれの立場で、食育を実践し、食料や食生活を大事にする心を身に付けていくことが求められています。このような、食育実践に対する農業面からの効果的な取り組みには、無・減農薬地場産物の地産地消の推進並びに農業体験の推進などがあります。

地産地消の効果には、地で育ったものを地の人が食することで、健康的な食生活の維持、また、無・減農薬栽培されたものを食することで、食の安全の確保があります。さらに、身近な家の庭やベランダなどで野菜づくりをする農業体験で、食や農業への理解が深まり、ひいては健全で安心な食生活につながります。

このような視点から、本館正面入口前の花壇を野菜、ハーブ、花を配したキッチンガーデンを設置し、市民に野菜等の生産や、生育過程を展示することによって、食育の普及・推進を図っています。

栽培については、松戸市農業協同組合や松戸市無農薬栽培研究会の栽培指導のもと、植え付けから栽培の管理を、東葛飾福祉会のみなさんにご協力をいただき運営をしています。6 月、10 月には、市内児童による収穫祭を行ないました。食育の情報発信基地として食の成り立ちを身近に感じてもらい、食と農業への理解を深めてもらいます。

東葛福祉会会長・角谷　昭一さんのお話

私たち東葛福祉会は、会員 280 人のボランティア団体で、保育所や病院の花壇の世話から、高齢者の介護までさまざまな活動をしています。キッチンガーデンでは、4 月に野菜の植え付けを終え、その後、週 1 回の草取りや虫の駆除を行っています。苗にネットを被せたり、葉の裏を一つひとつ見て手で虫を取り除いたり、作業は、手間のかかることが多いですが、その分作物に対して愛情も湧いてきます。キッチンガーデンを見た人が、ご家庭でも野菜を栽培するなど、作物をもっと身近に感じ

無農薬栽培研究会会長・吉田　昇一さんのお話

私たち無農薬研究会は、無農薬野菜の栽培を始めて今年で 14 年目になります。

農薬が作物にどんな影響を与えるのか、また、子どもや孫の世代にどんな影響があるのか、まだわからない部分もありますが、土壌には良くないことはわかっています。

無農薬栽培は手間がかかりますが、食の安全を守るため続けていきたいですね。

やはり無農薬で育てた野菜はとてもおいしいですよ。私たちが作った野菜は南部市場内「みどりの都」で販売しています。また、松戸まつり、みどりのフェスティバル等でも即売会を開催していますので、ぜひ一度足を運んでみてください。

２.特別策定委員　服部幸應氏との市長対談、講演会の開催

松戸市は、食育推進計画策定にあたり、食育推進委員会を設け検討を重ねるうえで、食育の第一人者である服部幸應氏に特別策定委員を依頼しました。服部氏は、17 年前より食育の必要性を訴え、8年前には「21 世紀の栄養・食生活の在り方検討会」（厚生労働省）の中で、知育・徳育・体育に「食育」を加えることを提案しました。また、平成 17 年施行の「食育基本法」ではアドバイザーとして法案策定に協力しました。平成 19 年 11 月 11 日に、服部幸應氏と市長が食育をテーマに対談を行い、計画づくりへのアドバイスをいただきました。また、平成 20 年 2 月 7 日に開催した食育推進イベント「食のウインターフェア in 松戸」では、「伝えていきたい　食育の大切さ」と題して講演をいただきました。

①市長対談

●服部氏の考える食育とは？

日本は、いま生活習慣病が増え、死亡原因の 64.8%を占めるまでになっています。また、61%もの食べ物を輸入しながらその 3 分の１を残飯として捨てている日本は、世界の食料事情にあまりに無関心です。家庭の食もおろそかになり、その問題は、こどもの心の部分にも及んでいます。健康を維持する食べ物をきちんと選ぶ力を身につけ、親は食卓で作法や

マナー、正しい食習慣をしつけることで健全な精神やモラルが育つのです。これらは、子どもたちが健やかに成長し、健康に生きてゆくために必要です。私は、「食育」の基本は、１．選食力をやしなう　２．食事作法を身につける　３．地球の食を考えるの３つからなっ

ていると考えています。松戸市の食育推進計画にも是非取り入れていただきたいと考えています。

●現在、「食育」で大事だと考えていることは？

なんと言っても家族で楽しい食卓を囲むこと。近頃では家族そろって夕食を食べる家庭が３割しかないそうですが、家族みんなで食卓を囲めばそれだけ豊かな気持ちになるものです。そして、食卓で食事の作法をきちんとしつけることでモラルのある人格が生まれます。

●今後、食育を通して行いたいことは？

実は、食に関する法律がある国は、日本だけで海外からも「食育基本法」が注目されています。松戸市は、もったいない運動を推進しているとお聞きしました。「MOTTAINAI」のように「shoku－iku」の考え方が世界に広まればよいと考えています。

②講演会「伝えていきたい　食育の大切さ」

　講演のなかで、服部氏は、食育の大切さを具体的な数字をもとに話され、多くの参加者が、最後まで熱心に耳を傾けました。日本ほど食事の際にテレビをつけている国はなく、子どもはもちろん親も食事の際にテレビに夢中になり、子どもと向き合う大事な機会を逃していることを話されました。また、動物の子どもは、えさのとり方を親から教えられ、独り立ちをしますが、現代の日本では、子どもの独り立ちがなかなかできず大きな社会問題になっていることを例にとりながら、食を通じた人間形成は、ますます重要と話されました。家庭、学校、地域、社会と幅広い領域における食育の展開を広めていく必要があると話されました。

３.まつど産学官フォーラム　食は人を良くする？みんなで話そう！食育の秋！

まつど産学官懇談会は、平成 11 年度から松戸市における産学官連携の可能性の検討や情報交換を行っています。平成 18 年度の懇談会の中で、松戸市で積極的な取り組みを進めている「食育」をテーマにしたフォーラム開催の提案があり、平成 19 年 11 月 29 日に初めての産学官フォーラムが松戸商工会館で開催されました。

フォーラムの一部では、平成 19 年 10 月に実施した食育に関する市民アンケート調査の中間集計結果をもとに「松戸市民の食育意識とその課題」と題して、松戸市食育推進委員会会長を努める千葉大学大学院園芸学科研究科の大江靖雄氏より基調講演をいただきました。また、第二部においては、「実践！食育！できることから取り組もう！」と題し、松戸市農業協同組合の木口直之氏、聖徳大学の長江曜子氏、日本大学松戸歯学部の妻鹿純一氏、流通経済大学の古井恒氏によるパネルディスカッションを行いました。また、講演会終了後、松戸市農業協同組合、千葉小金農業協同組合による松戸産の農産物の無料提供や試食があり、採れたて新鮮な野菜の魅力に大きな関心が集まりました。基調講演では、市民の食育に関する意識

の高さや世代によって異なる意識の差についてお話がありました。パネルディスカッションでは、噛むことの大切さや松戸特産の食べ物や新鮮で安全な松戸の農産物の紹介、食のリサイクルなど食に関わる非常に広範囲な話を聞くことができました。フォーラム終了後は、参加者から活発に質問が出され、食という身近な問題に対する市民の関心の高さが伺えました。今後も特色のある市内４大学と産業界、行政との連携による食を通じた積極的な取り組みが期待されます。

４.食育川柳・食育シンボルキャラクター

食育を市民に広く知ってもらう一環として、平成 19 年 5 月 15 日の広報まつどで「食育川柳・食育シンボルキャラクター」を募集したところ、食育シンボルキャラクター・愛称に 559 通、食育川柳には 617 句と多数の応募があり、それぞれ入選作品が選ばれ、8 月 7 日に表彰式を行いました。（川柳の選考は、全日本川柳協会常任幹事・松戸川柳会会長の米島暁子氏にお願いしました。）

食育川柳入選作品

〔市長賞〕

食欲を　そそる盛り付け　ママの腕

香宗我部　智江子さん

〔米島先生による評〕

食欲をそそるがまさに食育です。沢山食べたくなるように盛り付けるのは、ママの腕です。素晴らしい作品になりました。

〔教育長賞〕

一日の　スイッチ入れる　朝御飯

谷口　康平さん

〔米島先生による評〕

朝ごはんを食べないと脳も働きません。朝ごはんは、しっかり食べましょう。「スイッチ入れる」の発想がとてもいいです。

〔優秀賞〕

おかあさん　いつもごはんを　ありがとう

高橋　和宏さん

〔米島先生による評〕

この作品をお母さんが詠まれた時は泣いてしまった事と思います。大人になっても忘れないでくださ

い。

〔優秀賞〕

楽しいな　あそんだあとは　ごはんだよ

渥美　愛永さん

〔米島先生による評〕

純粋な子どもの心を川柳にしてくれました。ごはんを楽しみにしているのです。子どもらしい川柳になっています。

〔佳作〕

ママの味　笑顔が揃う　夕ごはん

末田　りつ子さん

〔米島先生による評〕

家族が健康でママの料理に笑顔が揃っています。楽しい食事の情景が目に浮かんできます。食育を大切にして健康で明るい家庭でありますように。

〔佳作〕

辞書にない　食育学ぶ　夕餉どき

阿部　章一さん

〔米島先生による評〕

食育を辞書で引いても出てこない、夕食の時に家族で学んでいるのです。五七五でリズムよくなめらかないい作品です。

〔佳作〕

おふくろの　あじはやっぱり　肉じゃがだ

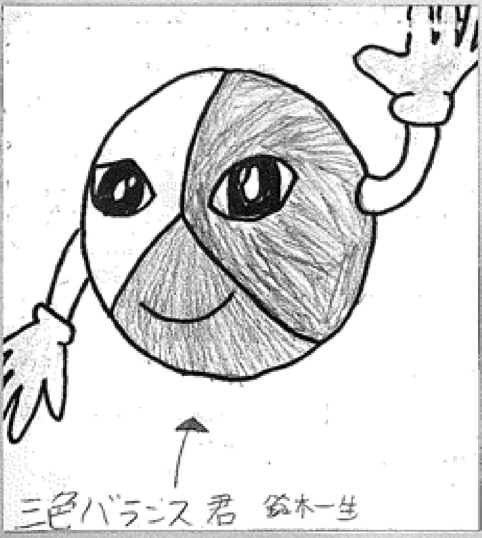
木村　理沙さん

〔米島先生による評〕

昔からおふくろの味は、肉じゃがといわれています。大人の話をよく聞いている賢いお子さんです。

食育シンボルキャラクター・愛称入選作品

市長賞「ぱくちゃん」
鶴見　萌さん

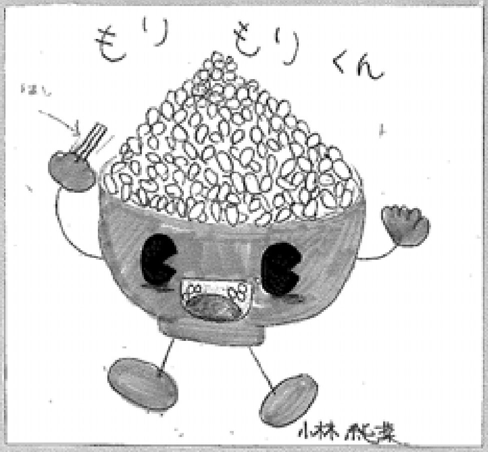


教育長賞「三色バランス君」
鈴木　一生さん

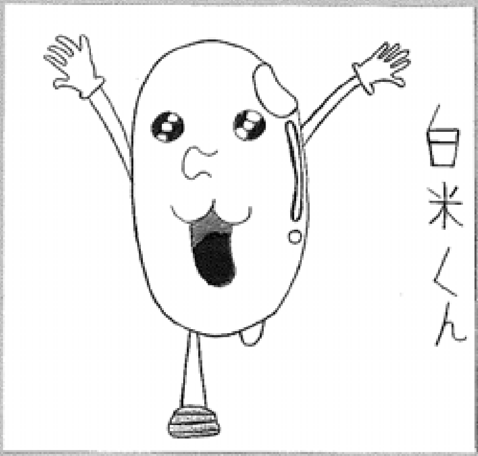
優秀賞「スーちゃん・フォーくん」
織畑　みちるさん

優秀賞「ニコニコ食育家ぞく！」
加藤　優貴乃さん

佳作 「ベジちゃん」
林　秋涼さん



佳作 「モリモリ君」
小林　純菜さん



佳作 「白米くん」
浅井　純さん

5.食育劇「ご老公　食育漫遊記　～元禄松戸村～

市民に食の大切さや食を大切にする行動をメッセージとして発信するために、食育劇を企画し、松戸市民劇団オリジナルの脚本で松戸市民劇団、市職員、聖徳大学美術部で協力し、平成 20 年 2 月 7 日の「食のウインターフェア in 松戸」で上演しました。

（　コ　ン　セ　プ　ト　）

基本テーマ	テーマに関連するオプション（素材）	味付け、色づけ
☆栄養バランス ☆子どもの食習慣 ☆成人病予防	◎栄養素と関連づけて地場産野菜等の美味しい食べ方 ・ネギ、カブ、白玉、梨、山崎パン等 ◎早寝・早起き・朝ごはん ・子どもだけでなく、万人に共通しそうな基本形、成人病予防にも繋がる ◎三食になったのは、いつから？ ・天皇の日常の食事、朝夕2回（源氏物語）等、古くは2食、現代は3食 ◎食の生産、流通 ・食べることは生き物から命をもらうことであり、色々な人の手を伝わって流通する ◎食に関する言葉の歴史、語源、用語 例：朝食＝朝餉（あさげ）、夕食＝夕餉（ゆうげ）	◎地場産品のＰＲ ◎今昔比較（歴史）

メッセージとして発信したいこと
☆食の大切さ ☆食を大切にする行動

キーワード スタート（導入）orエンディングで使用
◎あたり前から、あらためて ◎食という字は、人 良 ― 人を良くすると書く

：あらすじ

時代は、江戸元禄。メタボリックシンドロームに陥った松戸の代官のうわさを聞きつけて水戸のご老公が松戸村へ一喝するためやって来る。外食ばかりで栄養バランスの悪い食事、暴飲暴食、運動不足、過剰なダイエット、家族ばらばらでの食事など悪い食習慣を代官と妻ともども反省し、食の大切さを見直し、生活を改めることとなるという話。劇中、スライドで小金牧、野馬土手、子和清水、矢切の田園風景を紹介し、郷土の紹介も併せて行う。

●キャスト

台本作成・語り部	市民劇団	石上瑠美子
ご老公	女性センター	向後文大
八兵衛	健）企画	関口貴之
代官	市民劇団	込山章基
奥方	市民劇団	奥田富子
上総屋	市民劇団	武藤　武久
武士	市）企画	山室　武

●舞台背景　（聖徳大学美術部　製作）

①道中の風景（松、カラス、お地蔵さん）

②茶店・代官屋敷の門（左茶店・中央と右代官屋敷の門）

③代官屋敷・座敷（書院造り・掛け軸・違い棚）

●劇中歌　オールドメン（「ヤングマン」の替え歌）

オールドメン　さあ気をつけよう

オールドメン　今なら間に合う

オールドメン　もうメタボなんて言わせないぞ

オールドメン　ほら踊るんじゃ

オールドメン　わしの行く先に

オールドメン　元気が待っているんじゃから

すばらしい　O・M・C・A　O・M・C・A

脂肪など吹き飛ばせば　皆も元気になれる

そうさ　O・M・C・A　O・M・C・A

すばらしい　O・M・C・A　O・M・C・A

憂鬱など吹き飛ばして　みなで踊るんじゃよー

そうさ　O・M・C・A　O・M・C・A

年寄りだってやりたいこと　いっぱいあるんじゃよー

控えおろう　この食育ゴマが　目に入らんか～

年寄りだってやりたいこと　いっぱいあるんじゃよー